

トビウオ通信 (H24 第 6 号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成 23 年漁期の底びき網漁業の動向》

小型底びき網 1 種漁業 (かけまわし)

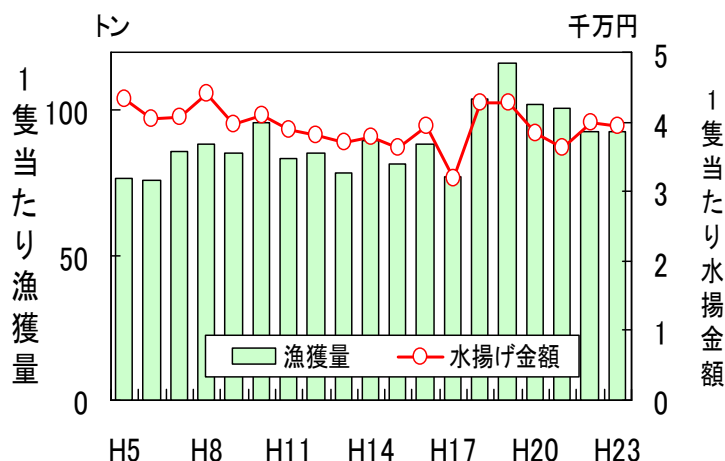


図 1 小型底びき網漁業における 1 隻当たり漁獲量と水揚げ金額の経年変化

ソウハチ 平年を上回る

ソウハチの CPUE は 26.1 トンで、平年の 1.5 倍の水揚げとなりました。ただ、漁場を沖合へ広げつつ漁獲増となっていることから、今後の動向に注意する必要があります。一方、ムシガレイの CPUE は 3.7 トンで平年の 7 割の水揚げに止まりました。また、ヤナギムシガレイの CPUE は 1.2 トン、メイタガレイの CPUE は 0.8 トンで、平年の 6 割の水揚げに止まりました。

ケンサキイカ 過去最高!

ケンサキイカの CPUE は過去最高であった前漁期をさらに上回り 7.5 トンで、前年の 1.4 倍、平年の 2.4 倍の水揚げとなり、H5 年以降最高の水揚げとなりました。特に秋漁がまとまり、好調の要因となりました。一方、ヤリイカの CPUE は H5 年以降最低の 0.3 トンで、平年の 2 割の水揚げに止まりました。

アカムツ 平年を上回る、キダイ 低調

アカムツの CPUE は 3.2 トンで、前年を下回りましたが、平年の 1.3 倍の水揚げがありました。ニギスの CPUE は 12.2 トンで、平年並みでした。一方、キダイの CPUE は 4.1 トンで平年の 6 割、アンコウの CPUE は 6.4 トンで平年の 8 割の水揚げに止まりました。このほか、アナゴ類は 4.6 トン、カワハギ類は 3.1 トンで、平年の 1.7~1.8 倍の水揚げがありました。

1 隻当たり漁獲量・金額、平年並み!

島根県の小型底びき網 1 種漁業 (かけまわし) 51 隻*の平成 23 年漁期 (平成 23 年 9 月 1 日~平成 24 年 5 月 31 日) の総漁獲量は 5,692 トン、総水揚げ金額は 20 億 1,226 万円でした。1 隻当たり漁獲量 (以下、CPUE) は 92.9 トン、水揚げ金額は 3,946 万円で、量・金額ともに前漁期並み、平年並み (過去 10 ヶ年平均; 93.0 トン、3,823 万円) の水揚げとなりました (図 1)。
*当漁業における島根県全体の操業隻数は 52 隻ですが、統計は 51 隻分の集計です。

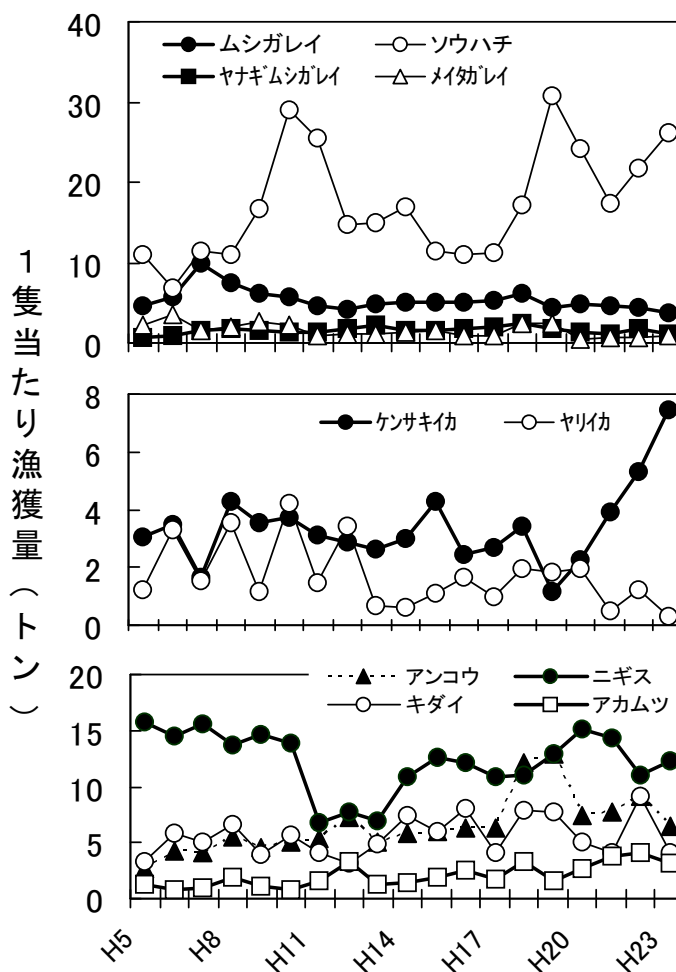


図 2 小型底びき網漁業における主要魚種の動向

沖合底びき網漁業(2そうびき) (県西部)

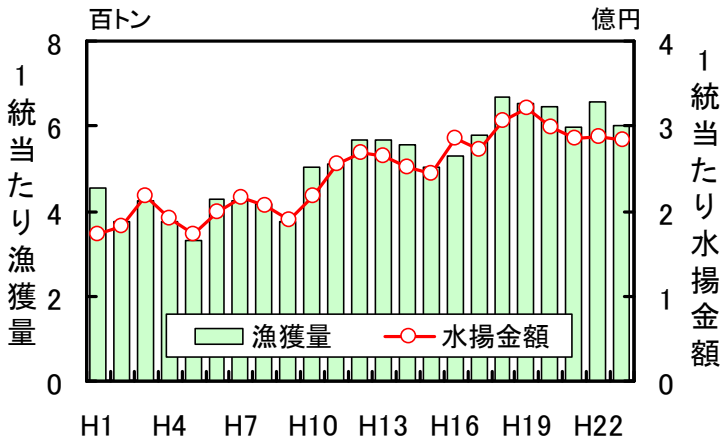


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当たり漁獲量・水揚金額の動向

1 統当たり漁獲量・金額、平年並み

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業（操業統数5ヶ統）の平成23年漁期（平成23年8月16日～24年5月31日）の総漁獲量は2,900トン、総水揚金額は13億5,784万円で、量・金額ともに前漁期を下回りました。これは4月より1ヶ統がリシップ工事のため漁期途中で操業を切り上げたことにより、前漁期を下回ることとなりました。また、1統当たりの漁獲量は600トン、水揚げ金額は2億8,286万円で、量・金額ともに平年並みとなりました（過去10年平均：596ト、2億8,170万円）。（図3）。

カレイ類 全般的に低調

主要魚種であるムシガレイのCPUEは69トンで、平年の8割の水揚げに止まりました。一方、ソウハチのCPUEは38トンで、平年並みの水揚げとなりました。また、ヤナギムシガレイのCPUEは11トンで、前漁期の7割、平年の5割の水揚げに止まりました。

ケンサキカ 好調！

ケンサキカのCPUEは69トンで、前漁期を10%下回りましたが、平年の1.6倍の水揚げとなりました。小底同様に秋漁は量がまとまり、好調に推移しましたが、春漁は低調に推移しました。また、ヤリカのCPUEは1トンで、統計が残っている昭和56年以降最低の水揚げとなりました。

アカムツ、アナゴ類、キダイ好調！

アカムツのCPUEは21トンで、前漁期、平年の1.3倍の水揚げとなりました。特に小型サイズ（メッキン）が休漁明けの8月と春季にまとまって漁獲され漁獲増となりましたが、中型～大型サイズ（ノドグロ）は春季の水揚げが低調に推移しました。アナゴ類のCPUEは50トンで、平年の1.3倍の水揚げとなり、好調に推移しました。アンコウのCPUEは41トンで、前漁期を上回りましたが、平年並みの水揚げとなりました。またキダイのCPUEは57トンで、平年の1.6倍の水揚げとなりました。漁期を通して、小型サイズ（シバ）、中型～大型サイズ（レンコ）が好調に推移し、平成22年漁期に次ぐ、高い値となりました。

この他、イボダイのCPUEは0.4トンで、二年連続で低調に推移しました。さらに、近年、冬季から春季にまとまった水揚げのあるマフグですが、今期は例年に比べ低調に推移し、CPUEは平年を30%下回る20トンの水揚げとなりました。また、カワハギ類（ウマヅラハギ）が3月に、マダイが9、10月にまとまって水揚げされ、カワハギ類のCPUEは23トンで平年の3.6倍、マダイのCPUEは15トンで平年の2.7倍の水揚げがありました。

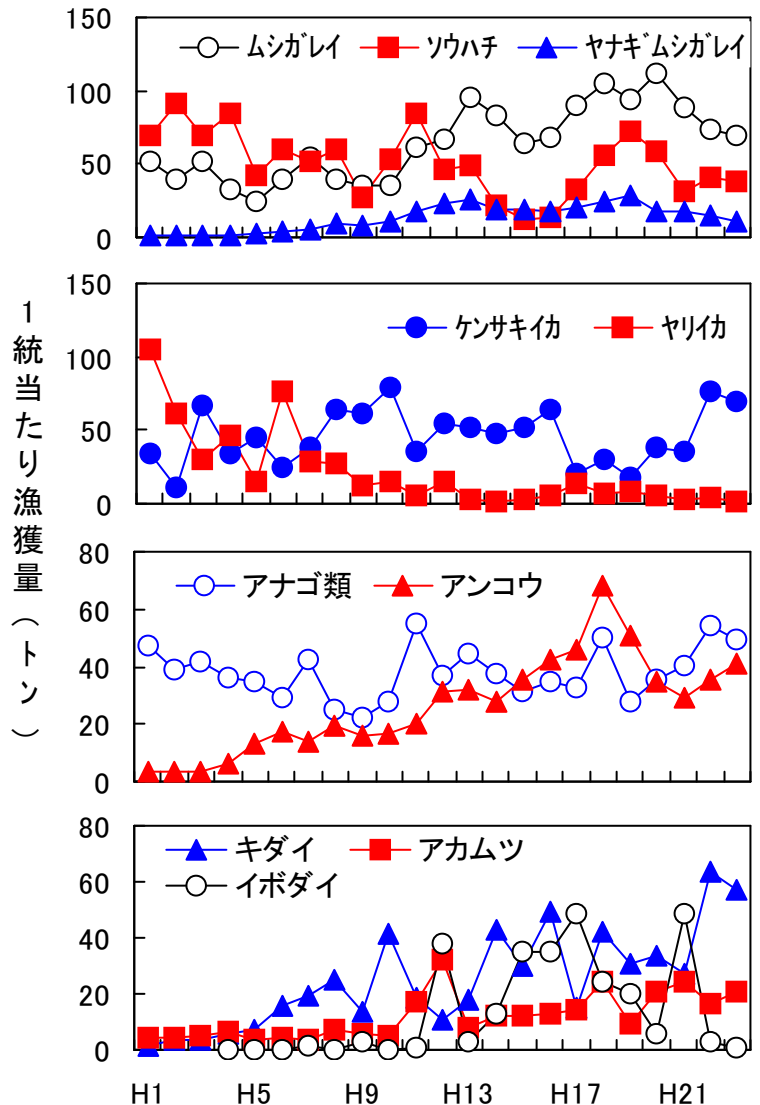


図4 浜田港を基地とする沖合底曳網漁業における主要魚種の動向